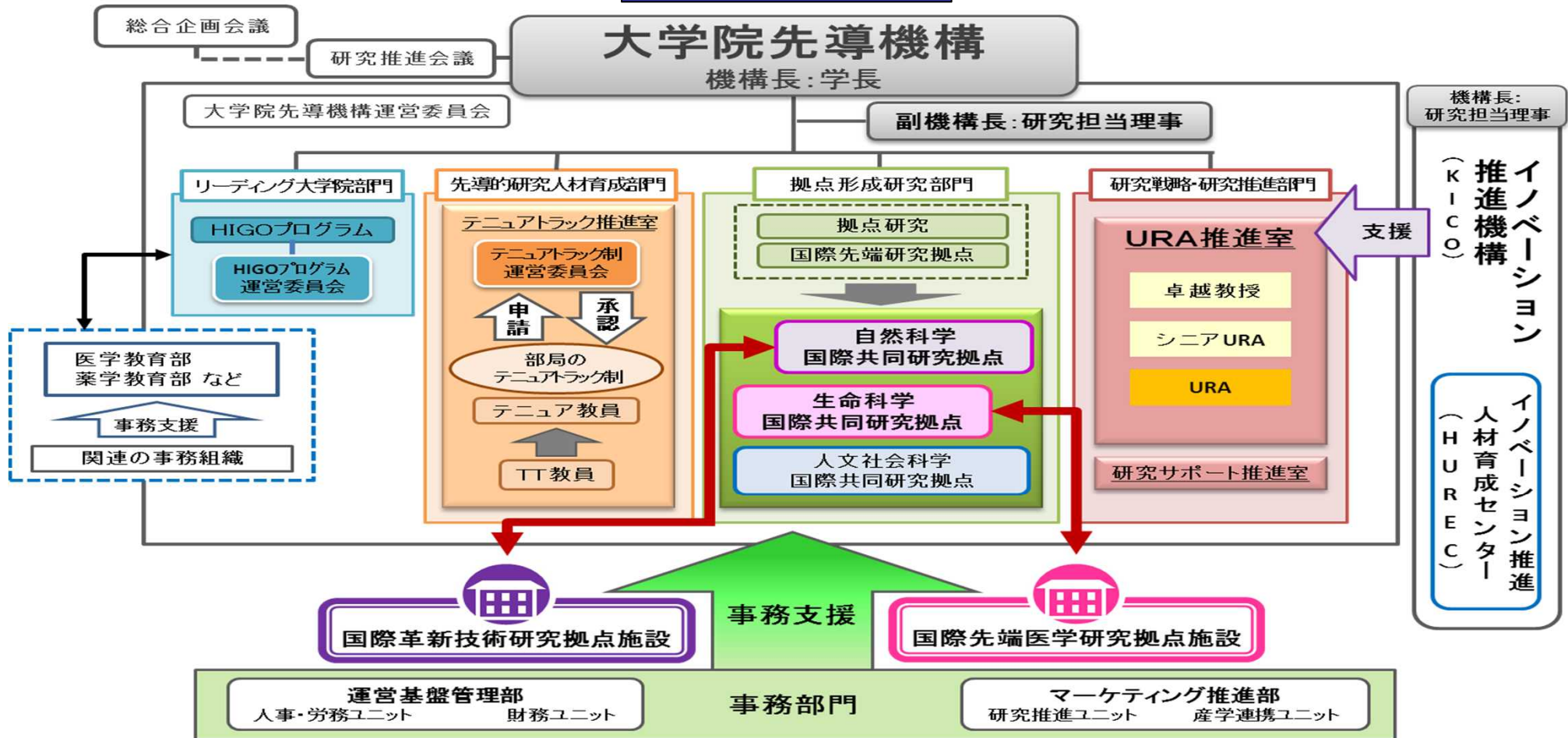


# 文部科学省「研究大学強化促進事業」熊本大学 ～世界的に評価される先端的な研究を推進強化～

平成25年度配分予定額：200百万円

生命科学、自然科学、人文社会科学の3分野に組織する国際共同研究拠点において、優れた研究者を選抜し、それらの教員を支援するURAを配置する。このことにより、研究の国際性を中心として研究力の強化を図り、世界的にも先端的な研究を推進し、特色ある基盤的研究を強化。

## 事業の実施体制



# 研究活動の強み・弱みや課題等の状況分析

## 現状・課題

- 有能な若手研究者の確保について、主に自然科学系に留まっており、生命科学系(特に医学系)、人文社会科学系では少ない。
- 大学の国際化について、学部留学生は全学生の0.6%にすぎず、外国人教員等は全教員の4.2%に過ぎない。
- 論文の国際共著率は23.1%であり国内平均にも及んでいない。

## 研究分析

- エルゼビア社、トムソンロイター社のデータベースを利用した独自の分析結果によれば、被引用数上位200に熊本大学が入っている分野について、自然科学系では金属・金属工学分野、生命科学系では発生生物学分野があげられ、これらの業績が優れている。特に熊大マグネシウム合金の研究成果は大きな注目を浴びている。
- 論文シェア率の高い研究分野の解析結果においても、自然科学系ではマグネシウム合金、パルスパワー、生命科学系ではエイズ学、発生医学の分野が優れている。
- 新しい組織の設置や改組の時期が、被引用論文数増加の基点となっている。つまり、これまで新たな組織の設置や改組の際、新しいポジションへ戦略的な教授選考が行われ、その分野の研究力に推進に大きな役割を果たしたと考えられる。

## 本事業により取り組む制度改革

研究推進実施体制の  
一元化の実現

研究の国際化を更に進めるための  
国際共同研究の推進と環境整備

戦略性に富んだ  
教員人事の実施

URA人材の  
育成と確保

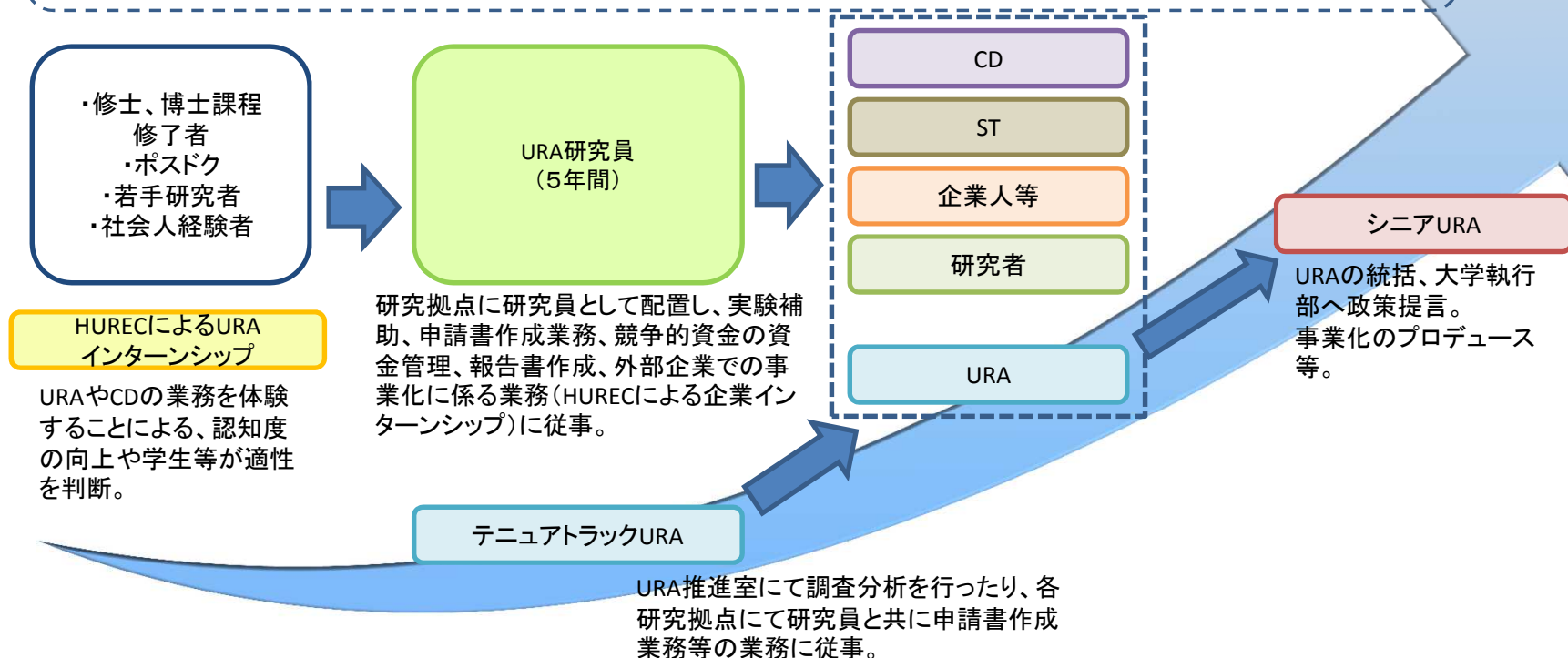
研究の効率を上げる  
ための研究支援体制の強化

# URAの確保・活用の取り組み

1. そもそもリサーチ・アドミニストレーターに対する認知度(学内外)が不足しており、特に地方都市では有望な人材が得がたい。
2. 最終的にURAを研究支援、産学連携を通じ、事業化をプロデュース出来る人材に育成することが必要。
3. 育成・確保にあたっては、他の職種(CD、ST、企業人等)でも活躍できるような配慮が必要。

## 熊本大学で実施するURA人材のキャリアパス

- ・大学院生等に対するインターンシップの実施。
- ・ポスドク、若手研究者、社会人経験者(概ね30代前半まで)をURA研究員(非常勤職員)として雇用し実務経験を積むことによる適切な適性の確認(インターンも含め最大3回)と、幅広いキャリアパスの提示。
- ・URAの他にも、産学官で幅広く活躍できる視野をもった人材を社会に輩出



# 本事業により取り組む研究環境改革（研究力強化構想の有機的構成）

## 大学院先導機構

機構長：学長 副機構長：研究担当理事

先導的研究人材育成部門

リーディング大学院部門

研究戦略・研究推進部門

## 拠点形成研究部門

拠点研究

国際先端研究拠点

創造する森

自然系

人文系

生命系

卓越教授

URA

URA

卓越教授

URA

自然科学  
国際共同研究拠点

人文社会科学  
国際共同研究拠点

生命科学  
国際共同研究拠点

- 国際研究環境の整備の加速
- テニュアトラック制の拡大
- 研究支援体制強化

テニュアトラック教授・准教授の  
国際共同拠点への参画

国際革新技术研究拠点施設

国際先端医学研究拠点施設

国際共同研究の加速

挑戦する炎